

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2671100101 | | |
| 法人名 | 啓信会 | | |
| 事業所名 | グループホームリエゾンくみやま | | |
| 所在地 | 京都府久世郡久御山町林中垣内38-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年3月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年6月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2671100101-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 令和3年4月15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者も高齢化により身体機能の低下が見られる。それぞれの想いを汲み取り個別の外出や散歩趣味を生かした作業なども取り入れている。半数の方が機能訓練を取り入れ実施。ADLの維持向上を目指している。地域住民との繋がりを広めるため、お米は近隣の農家や隣のスーパーを中心に買い物をしている。ホームに畑があり自家栽培した野菜を使い季節を感じるメニューと取り入れたり収穫を楽しむ体験などもしている。認知症の周辺症状にも個別記録にフォークスチャーティングを取り入れ尊厳や人格を尊重した対人援助を行っている。ターミナルケアに関して「住み慣れたホームで」と本人や家族の意向を尊重し医療と連携を図りスタッフ皆で協力し今回も看取りをすることが出来た。地域の唯一のグループホームとして今後も利用者の安全と住み慣れた地域で安心して暮らせるよう日々介護の専門性と資質の向上に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「住み慣れた地域でみんなで仲良く暮らそう」と理念に謳い、ホームを在宅と捉え居室も自宅と同じような設けにし今までの暮らしを尊重しながら地域の中で楽しく暮らせるよう支援しています。例年は文化祭や祭り等地域行事への参加やボランティア等の来訪があり、コロナ禍においても近隣の散歩時に会った方と挨拶を交わしたり、隣のスーパーで食材を購入し米も地域の農家から購入する等地域との関わりが持てるよう取り組んでいます。経年の中で家族とも良好な関係を築き、夏祭りや敬老会、運動会、親睦会、外出行事等交流の機会も多く持ち、コロナ禍においてもサービス担当者会議への参加を得たり、要望があれば感染対策を行い短時間での面会に対応したり、広報誌や手紙、電話等で利用者の日々の様子を伝え家族との信頼関係が継続するよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「住み慣れた地域でみんなで仲良く暮らそう」の理念、朝礼時に必ず目にし確認している。地域の文化祭の参加をして地域行事に参加している。しかしコロナ禍で現在自粛中ではある。 | ホーム独自の理念は年度毎に見直しを行い、事務所に掲示すると共に朝礼時に唱和することで日々確認し、新任入職時にも説明をしています。利用者が自宅、と同じように暮らせるよう個々を尊重し居室の配置や飾りつけ、日々の暮らし方等に配慮し、会議等で随時振り返りながら理念の実践に向けて取り組んでいます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 事業所として地域行事で「コーラス」の参加のしたり幼・保育園や小学校との関りを持ち交流を図っているが現在は自粛中である。 | 例年は地域の行事に参加したり、傾聴や踊り、コーラス等のボランティアの来訪や地域の清掃活動等にも参加していましたが、コロナ禍では近隣の散歩時に出会った方と挨拶を交わしたり、近隣のスーパーを利用し食材の購入や米も近隣の農家の方から購入する等少しでも地域と関りが持てるよう努めています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議での報告や地域行事に認知症の方の元気な姿を見て頂く機会があったが今年度は自粛中である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度はほぼ会議が中止している。議事録をお知らせとして文章し報告。事業所便りもあわせて現在の取り組みをして役場や家族に配布している。 | 会議は多くの家族や役場職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に行い入居者状況や行事、看取り支援、事故報告等行い意見交換し、災害時の緊急連絡等についての協議をしたこともあります。コロナ禍においては議事録を手渡したり、送付することで開催としています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナ以前は介護サポータの定期訪問や機関紙「ほっと便り」の発行(季節ごと)写真と共にホームの様子を見て頂いている。運営推進会議議事録の提出し出来る範囲内の情報を提供している。 | 運営推進会議の議事録を届けたり、事故報告や書類の手続き等については窓口を訪れ、疑問点等あれば電話で聞くようにしています。アンケート依頼に協力したり、感染症等の注意喚起が届いた場合は職員に周知しています。コロナ禍においては消毒液やマスク、手袋の配布があり、今年度はリモートでの研修に参加する予定にしています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本「拘束ゼロ」を目指した実施。転倒などの危険性のある方、行動把握をする方にはセンサーの設置を家族様同意のもと対応させて頂いている。玄関に関しては以前に脱設者もおり前が交通量もそれなりにあり事故も予測されるため玄関の施錠はしている。 | 職員は身体拘束のリモート研修を受け理解を深めており、不適切な対応があった場合は職員同士で注意し合っています。法人の各事業所代表が3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、内容を職員に伝達しています。玄関の施錠はしていますが希望があれば職員付き添いのもと庭の畑に出たり、近くを散歩する等気分転換を図っています。センサー使用者については定期的に話し合いを行い家族に随時報告をしています。 | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員一人一人が認知症である事の理解をし、虐待によっては解決しないことを前提に理解し尊厳を守るよう指導している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在対象者はいない。管理者は過去に権利擁護について他事業所では対応経験や初任者講習などでの概要の担当でもあったことから対象者がいれば勉強会など対応は出来る。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 8月から着任、当ホームではまだ、契約に関しての業務はしていないが、他事業所で9年間ほど相談員・管理者として契約書の取り交わしは行っている。今回は居宅療養管理指導(薬剤師と入居者)の契約の際に説明をし全員にご理解を頂き契約実施に至っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者に関しては日々のかかわりの中で小さなことでも話を拾うように心掛けている。コロナ禍で面会が中止など家族が来られる機会が少なくなったが担当者会議や薬の調整など家族様と話す機会に要望等聞いて反映している。 | 利用者からは食べたいものや買いたいものについての要望が多く献立に反映したり、職員が購入をしています。家族からは来訪時やサービス担当者会議、電話等で聞くようにしており、面会の要望については感染対策を行い短時間であれば可能となっています。また家族には広報誌や手紙の送付、電話等で利用者の日々の様子等を都度伝え意見を出しやすい関係作りに努めています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 8月から着任の為、出来るだけスタッフの話を聞く時間を設け意見を尊重し改善や働きやすくなるよう心掛けている。 | 職員からの意見や提案は会議や面談時、申し送り時等に聞いており、会議不参加の場合は事前にメモで意見をもらい会議中も全職員が意見を出せるよう一人ずつ意見を聞いています。業務の流れを検討しレクリエーション時間の変更や利用者への支援を統一したり、ネット環境の整備やカラオケ機器等の物品購入に繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は早出・遅出夜勤と変則勤務が多い為スタッフと話をする機会を常に設けている。外部のセンター長に関しては法人メールを活用し報告・連絡相談をして定期的な会合の他に業務のすり合わせをしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | センター長と管理者とで相談のもと8月からスタッフと定期面談しスタッフの実力を吟味し良い所を褒めて伸ばすよう、また足りない所をアドバイスするように心掛けている。2月～WEB研修の実施が出来た(身体拘束・アンガーマネジメント) | | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍でなかなか同法人との交流を深める場が無いのが現状。それまでは定期的な法人研修や慰安会による交流がはかれていた。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期援助に関してはロケーションショックが強くないように本人に寄り添える時間を設け不安を少しでも無くすように取り組んでいる。情報を元にご利用者とコミュニケーションを深めよき理解者になるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 管理者やCMの聞き取りにより対応、不安を取り除くよう、ご利用者の人格を尊重することを念頭に置き話をするようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の切迫性なども見極めどうすれば穏やかに過ごせるようになるか等本人や家族の思いを汲み取ったサービスが出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は「お互い様の心」を持ちケアにあたっている。家事を手伝ってもらって自己有様観を出したり昔の話や歌など教えてもらったりの生活で成り立っている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族とは電話や面会時など限られた時間を有効に使いながら聞き取りの場を設け、共に本人を支えていく関係性を築いている。またコロナ禍でご利用者が家族と疎遠にならないように必要なことは家族にも依頼している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 天候の良い日は見慣れた道を散歩し近隣の方などとも会話をし、友人の理髪師の方にカットされる方もおり馴染みの関係が築けている。 | 例年は自宅周辺を散歩したり家族と一緒に自宅や墓参り、法事等に出かけていましたが、コロナ禍においては友人からの電話の取次ぎや年賀状等のはがきの準備、あて名書きの代筆、投函等の支援を行っています。友人の理髪師の訪問があったり、以前からの友人の写真を見ながら懐かしい話をすることもあります。利用者の馴染みの人や場所については入居時等のアセスメント時に聞き取り、職員間で共有しできる限り関係が途切れないよう支援しています。 | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お互いのこだわりや各ご利用者の相性を鑑み配席を考慮。なかなか良い関係を築くのは安易なことではないが歌など一緒に楽しめる時間を作っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了されたご家族も「祭り」などに参加しに来て頂いたり他施設で亡くなられた際もご連絡を頂き交流を図っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所前の聞き取りで生活歴や趣味などの把握はしているが入所後も今のADLに合った暮らし方を職員内で共有・検討し、よりよく暮らせるように努めている。 | 入居時の面談で施設やサービス事業所等へ出向き、本人や家族から生活歴や暮らしへの意向、趣味、特技等を聞きフェイスシートに記載し思いの把握に努めています。入居後は日々の会話や様子、表情等から思いを汲み取り、把握が困難な場合は家族から聞くこともあり、気づいたこと等個人記録に詳細に記載しサービス担当者会議で本人本位に検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の聞き取りや情報提供を元にご利用者が不安を少しでも減せるよう話をする中で不安要素を減らせるよう接している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 仕事に入る前を前提にご利用者のカルテに目を通し日々の生活の変化を漏らさぬよう努力している。また申し送り板やフラグ(緑・赤)を使い医療面なども漏らさないように心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフで毎月のモニタリングを行いそれぞれの見解から意見を出しており、その気づきによってプランに繁栄出来ている。 | 本人や家族の意向を基に初回は暫定のプランを作成し1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月で見直しを行い特に変化がなければ1年毎に見直し、生活機能加算の対象者は3ヶ月毎に行っています。毎月、職員の意見を聞きながらモニタリングを行い、見直しの際は再アセスメントと家族の参加を得てサービス担当者会議を開催し、時には利用者が参加することもあります。医師や看護師、理学療法士、薬剤師等の意見も必要に応じて反映しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子をカルテに記入しその情報によって皆で実践し良ければ介護計画に反映するようにしている。 | | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者の状況はそれぞれ異なりそれぞれの対応が出来るように努めている。個別の買い物への同行や外食。受診時の薬の調整など分かりやすくし柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 公民館ホールの催しの参加や近隣の並木道、氏神社への参拝や隣接のスーパーの利用等、思い入れのある場所を上手く使う事が出来ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 居宅療養指導にて対応中。希望や必要があれば連絡も密に取り薬の変更など適切な医療指示も受けている。2月末はターミナル対応もドクターと連携を密に取り、3月には看取りをすることが出来た。 | 全利用者が協力医に変更しており月1回の往診を受けています。体調不良時は24時間連絡可能で、直接連絡し往診や受診等の指示を仰ぎ、法人看護師が週1回来訪し健康管理を行っています。専門医への受診は主に家族が対応し書面や口頭にて情報を共有しています。歯科は3ヶ月に1回医師が来訪し、月1回口腔ケア等希望や必要に応じて受けています。生活機能向上の対象者は月2回、リハビリの指導も受けています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が週に1度は関り、また外部のセンターの長が看護師でもある為比較的日常の医療に関しての連絡と相談は実施中。便秘時の摘便処置なども長い便秘期間待たず排便コントロールなども安定している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 基本は1週間単位での連絡を取り状況の把握し相談員が事業所と家族との連絡を図りできるだけ早期に退院できるよう目指す。2月にはターミナル対応、点滴が受け付けなくなった時点で再入居の受け入れ。1週間後には逝去されたがコロナ禍の中、良いタイミングで退院できたと思う。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 今回は終末期を迎えるにあたり、本人や家族の思いを聞き取り話し合いを行いプランに沿った支援を職員・医師・看護師とともにチーム一体で支援に取り組むことが出来た。 | 入居後、食事量の減少等重度化した場合は看取り指針を基に家族に詳しく説明し、医療行為が必要となった場合は対応が難しいことを伝えていきます。その後状態について医師が説明を行い、家族や看護師、職員等で方針を決め看取り支援を行う際は家族には頻回な面会や食べやすいものを届けてもらうなどの協力を得ています。支援後は会議等で振り返ったり、外部研修を受けた職員から伝達を受け理解を深めています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時のマニュアル(掲示している)があり、全ての職員は目を通して対応、管理者やセンター長の指示の元対応している。昨年は緊急シート作成。迅速でわかりやすい情報を流す工夫をしている。 | | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練(通常時・夜間帯)を定期的には実施はしているが護送者が多く十分な対策がとれるかの課題はやはり否めない。ただし、法人全体で当ホームの緊急時の応援態勢の仕組みはとっている。(災害時など応援名簿がある) | 例年は年2回昼夜間を想定し通報や初期消火、利用者の参加を得て避難誘導等の訓練を行い、運営推進会議で案内や報告をしていましたが、コロナ禍においては例年と同内容で行い、更にDVDを見ながら研修を強化しています。飲料水や缶詰、レトルトの粥、ご飯等の備蓄やカセットコンロ、懐中電灯等を準備しています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人一人に合わせた言葉かけや対応を行い人格を尊重しプライバシーを守るよう心がけている。職員同士の会話に関しては不適切と思われる言葉があればその場で注意し合うよう心がけている。 | 年1回、接遇についての研修を受けた職員が伝達し周知していますがコロナ禍においては資料等を回覧し理解を深めています。今年度初めに行う法人研修には参加する予定です。日々丁寧語を基本に声のトーンにも配慮し、名前は苗字で呼びかけていますが、わかりやすいよう下の名前でも呼ぶ方もいます。希望があれば同性介助にも配慮しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | できるだけ本人に意向を聞いた上で決定を決めるようにしている。自身で考えられない方に対しては選択肢を用意して提案する。職員間で決める場合は業務中心な思考にならないように努めて支援をするようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 比較的ホールで過ごす方が多いが居室で過ごす方も尊重し各々の意見も伺いながら過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2、3ヶ月に1度訪問理美容に来ていただいている。「染毛」のしたい方は染毛も実施。衣類は本人の希望があれば家族の了承の元、一緒に買い物へ同行している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | レクリエーションにて昼食・おやつ作りの日を毎月できるだけもうけている。職員も一緒に団欒を囲み状況に応じて食器洗いも伺いを立ててしてもらっている。 | 朝夕食についてはホームで献立を立て菜園で採れた野菜や日々食材を購入して作り、職員と同じ食卓を囲み食事を摂っています。昼食については冷凍で調理済みの物を温めて盛り付け、ご飯や汁物はホームで作り行事の際は野菜の下拵えや調理、盛り付け等、利用者と一緒に準備をしています。鍋物やバーベキュー等のイベント食や仕出し弁当を取ったり、おはぎや水無月、ゴマ団子、大学芋等の手作りおやつも一緒に楽しんでいます。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 活動量や体重の変化を見ながら食事量を調整したり水分摂取が少なかったり便秘気味の方には水分促しの強化や水分量の計測をしている入居者もいる。 | | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は口腔ケアの促しや自身でできない方は介助を実施。ブラッシングできない方は口腔テッシュにて介助を実施全員に実施中。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定時の誘導もあるが必要に応じてトイレ誘導を実施。失禁の多い方は誘導を増やし陰部内の湿潤の時間を短くするように努めている。ガス臭があれば直ちにチェックなど個人個別ケアとして認識している。 | 日中は座位保持が可能であればトイレでの排泄を基本としており、夜間は危険回避や安眠対策のためポータブルトイレやオムツを使用している方もいます。排泄表でパターンを把握し声かけや誘導をすることで失敗が減りパッドが不要になったり、退院後についても早期に元に戻るよう支援しています。排泄用品の種類や個々の支援方法についても随時会議で検討し自立に向かうよう支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分を多くとるように促し排便コントロールがうまくいくように医師・薬剤師と相談の下剤管理をしている。日々の食事には食物繊維を多くとるように各スタッフ夕食の献立を考えている。(昼食は外注で選択方式) | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回入浴の日、時間は決まってはいるが気が乗らない方は翌日に振り替え。入浴剤も入れ気持ちよく入っていただくように務めている。 | 入浴は週3回日中に支援をしており、入浴剤を使用したりゆず湯等を楽しみ、シャンプーやリンス等好みの物を持参している利用者もいます。拒否がある場合は日時や職員を変更するなど無理のないよう入浴支援に繋げています。脱衣所にCDラジカセを持ち込んだり、職員と会話を楽しみながらゆっくり入浴してもらい、ほとんどの方が湯船に浸かれるよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調に応じて臥床してもらったりソファで寛いでもらったりと状況に応じて休んでいただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カルテに処方袋を入れ目的や副作用の内容がわかるようにしている。療養管理指導時には入居者の服薬一覧表を作成し錠剤や外用薬の管理をし状態に応じて変更を医師に上申している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活リハビリとして洗濯物干し・量みの作業や食器荒いや食事作りもADLに合わせて分担して行ってもらっており自己有用感を生み出すよう心がけている。 | | |

グループホームリエゾンくみやま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 近隣の並木道には散歩ができるよう心がけている。希望があれば自宅を見に行ったり家族とにちから会えるよう支援している。ドライブに関して他事業所から車を借り、ドライブもしていたがコロナ禍でもあり現在は控えている。 | コロナ禍においては近隣を散歩したり、ドライブで初詣や桜、紅葉見学等に出かけ、バルコニーのベンチでが外気浴をしたり、野菜の収穫等で庭に出るなど外気に触れる機会を作っています。例年は地域の行事に参加したり、初詣や桜の花見等季節毎の外出の他、東大寺や琵琶湖博物館、水族館等の遠出もしており、家族の協力を得て一緒に楽しんでいました。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | IADLとしてのできる方は限られているが買い物やいかれる際は自身のお小遣い(預かり金)で支払ってもらっている。初詣の際はお賽銭を投げ入れたりして風習・神事とお金の大切さを理解してもらうよう努めた。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人希望や家族の希望があれば取り次いでいる。入居者から家族様宛に年賀状を出していただいた際は家族様に喜ばれていた。今期、タブレット購入し「LINE」を使ったビデオ面会も企画中。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 壁には季節のわかるものを掲示したりテーブルには生花や造花を飾り温かな家庭的な演出をしている。食事以外もソファに座りくつろいでいただけるよう支援している。 | ホームの庭に咲いた花を利用者に花瓶に挿してもらいテーブル等に飾ったり、壁には利用者と一緒に作成したあやめや菖蒲、桜等の花や紙で作った壁画等を飾り季節感のある雰囲気作りをしています。空気清浄機を設置し日々掃除や換気、消毒を行い温湿度や利用者の体感にも留意しながら快適に過ごせる共有空間を作っています。テレビ前に数人掛けのソファや廊下に椅子を置き思い思いの場所で過ごせるよう工夫をしています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご利用者の相性なども配慮してテーブル席を配慮している。ソファやブランケット用意し居心地良く過ごしていただくよう考慮し支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドはGHの物であるがダンスや中には仏壇を持ち込まれている方もおり愛着のある思い出の品物を置いたりしている。人によってはラジカセやテレビを置きくつろげるよう支援している。 | 入居時に馴染みのダンスやテレビ等の家具を持参し家族と相談しながら配置をしています。仏壇や遺影、位牌等大切な物や家族の写真、趣味の本やラジカセ、縫いぐるみや人形等自身の作品を持参したり、毎日仏壇の水代えや日々のでき事をカレンダーにメモする利用者もおり、その人らしい居室となるよう配慮しています。掃除や換気、消毒等清潔保持にも努めています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 口腔ケアに関しては自立でできる方は手に取りやすいところに置き自立支援をしている。また居室からの導線は環境整備をし障害物のないよう心がけている。 | | |